

## 2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	各部構法計画小委員会		主 査 名：岡路 明良 就任年月：2018 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (設計計画・構法計画運営委員会)		委員長名：広田 直行 主 査 名：角田 誠
設 置 期 間	2018 年 4 月 ～ 2020 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「構法の情報化」に関する研究を推進すること</li> <li>・「構法史」に関する研究を推進すること</li> <li>・最新構法事例に関する講演会・見学会を企画し、情報化・収録を行うの3つを目的とする。</li> </ul> <p>「構法の情報化」は前身の各部構法小委員会でも検討してきた構法写真データベースの開発を継続し、蓄積された情報の一部を「構法アトラス」として出版すること、また既存の構法情報の BIM 対応化を目標とする。</p> <p>「構法史」については「近代建築作品の構法解説本」の出版を当座の目的とし、様々な建築作品の公法的分析について知見を広く蓄積することを目指す。二つの研究課題についてはそれぞれ WG を設置し、毎回の小委員会で進捗状況について議論する。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：岡路 明良 (鹿島建設) 幹事：池尻 隆史 (近畿大学)、信太 洋行 (東京都市大学) 委員：南 一誠 (芝浦工業大学)、角田 誠 (首都大学東京)、小見 康夫 (東京都市大学)、清家 剛 (東京大学)、熊谷 亮平 (東京理科大学)、奥村 誠一 (青木茂建築工房)、加戸 啓太 (千葉大学)、石田 航星 (早稲田大学)、前島 彩子 (明海大学)、小久保 彰 (建築技術教育普及センター)、門脇 耕三 (明治大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<p>構法の情報化 WG： 建築生産に ICT が深く浸透しつつある現在、構法計画学も情報化技術を前提に、時代に沿うべく対応してゆく必要がある。本 WG は以下の2つを主な活動目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 研究者・実務者が保有する、建築構法関連写真の資産をネット上で共有しつつ、それらを基に写真集「建築構法アトラス (仮称)」の出版に向けた準備活動を行う。</li> <li>② 構法計画の主要な目的の一つである「部位のまとまりと生産のまとまりのコーディネート」を BIM 上で効率的に行うための調査・検討を行う。</li> </ol> <p>構法史 WG： 建築構法の歴史的な側面についての研究は、これまで十分に行われてきたとはいえないが、近現代の構法についても失われるものが生じつつあり、その意義と必要性は高まっている。そこで本 WG では、構法史研究の端緒を開くことを目指す。具体的には、特定の近現代建築作品について、当該作品を取り巻く建築生産システムや現地の在来構法などを踏まえながら、その構法を分析し、分析結果を蓄積することを通じて、研究課題を明確にするとともに、構法史研究の見通しを整理する。</p>		
2019 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)

<p>刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)</p>	
<p>講習会</p>	
<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画</p>	
<p>大会研究集会</p>	<p>パネルディスカッション 「震が関ビルディング(1968)に見る分野横断的アプローチ」 参加者数 85名</p>
<p>対外的意見表明・パ ブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)</p>	<p>1. [構法の情報化 WG] 「建築構法アトラス (仮称)」の準備作業として、投稿用に構築した (オリジナルの) ホームページを用い、委員より写真と文章の投稿を募り、130 枚強の写真データを収集した。次に、それらを念頭に、「建物再生」を大きなテーマとして、写真と簡単な解説を書き込むための共有ドキュメントを Google Docs で作成した。編集上に設定した小テーマ (つなげる/拡張する/削る/移動する/挿入する/元に戻す/移動する/・・・等々) に沿って、本格的な原稿執筆に向け作業を進める予定である。</p> <p>2. [構法史 WG] 構法の歴史的な発展過程をモデル化し、そのモデルを実例に照らして検証する作業を行った。並行して、歴史的な建築物や最新の建築物の見学会を行い、実際に用いられている構法についての知見も深めた。また構法史に関する催し物として、震が関ビルについてのパネルディスカッションが大会にて行われたが、ここに WG 委員が登壇し、構法史の展開についての議論を行った。</p> <p>3. [最新構法事例に関するレクチャー・見学会の開催] 2019年4月24日「港区旧協働会館曳家・復元工事」見学会、6月14日の委員会時に「コンピューテーショナルデザインの最新動向」を実務家からのレクチャー、2020年2月10日に「浜松町世界貿易センタービル再開発工事 B 棟」見学会を、建築計画・構法計画運営委員会傘下の 6 小委員会参加可能の会として開催。3月26日には、前出の「港区旧協働会館」の竣工見学会を予定。本小委員会以外からの参加者とともに、研究と実務を結ぶプラットフォームを実現した。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1. 構法の情報化 WG については、当面は出版を念頭に作業を進めていくが、ネット上の共有ドキュメントによる原稿作成は、簡易で即時性があるため、これを一般公開することも考えられる。ただし写真の公開の可否に応じた仕組みを考える必要がある。</p> <p>2. 構法史に関する議論は活性化しているが、具体の研究につながっていないのが課題であるが、次年度は具体の建築物の実態調査を含む研究を開始する計画がある。</p> <p>3. 最新構法の共有を目的として、継続して現場事例見学会や講演会の実施が必要である。また BIM やコンピューテーショナルデザインの活用が構法分野にもたらす変化に注視しつつ他分野へ開かれた意見交換の場として貢献することを目指す。</p>